



Title	Analysis of A High Energy Nuclear Interaction in Emulsion Chamber
Author(s)	長谷川, 俊一
Citation	大阪大学, 1959, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/28136
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・(本籍) 長谷川俊一
 学位の種類 理学博士
 学位記番号 第45号
 学位授与の日付 昭和34年3月31日
 学位授与の要件 学位規則第5条第2項該当

学位論文題目 Analysis of A High Energy Nuclear Interaction
 in Emulsion Chamber
 (エマルジョン、チエムバーの中の一つの高エネルギー
 Nuclear Interaction の研究)

(主査) 教授 浅野 芳広 (副査) 教授 内山 龍雄 教授 若槻 哲雄
 論文審査委員 助教授 高木 修二

論文内容の要旨

Analysis of A High Energy Nuclear Interaction
 in Emulsion Chamber
 Shun-ichi Hacegawa

A high energy jet shower of primary energy exceeding 10^{14} ev found in emulsion chamber is fully analyzed. The distribution of the transverse momentum of secondary π° -mesons is measured and the mean value of 450 Mev/c is obtained. This distribution of transverse momentum of secondary π_{\circ} -mesons agrees well with that obtained in our previous paper in the limit of the statistical fluctuation, which concluded this distribution in the statistical manner using many jet showers of primary energy region of about 10^{13} ev,

The emission angle dependence of the transverse momentum of decayed γ -rays of π° -mesons is examined with both the direct measurement and the statistical method, and no appreciable change of the transverse momentum by the emission angle is found.

The angular distribution of both charged secondaries and π° -meson in the forward top of the angular distribution is compared and the noticeable difference is not found. Many other dynamical properties of the multiple meson production is studied: the energy spectrum of secondary π° -meson is measured and the type of dE/E^2 is obtained, the angular distribution of the energy flow converted to the soft component of the jet shower is obtained as $1/\theta^2 \cdot \theta d\theta$. These results agrees with the conclusion drawn from the angular distribution of π° -mesons and the angle independence of the transverse momentum.

The production ratio of π° -meson to all charged secondaries, containing charged π -meson, charged heavy mesons, proton and its angular dependence is examined. The production ratio in the very narrow cone of this jet is 0.44 ± 0.09 and the angular dependence of this ratio is not found.

The cascade development in the emulsion chamber in the early stage of the development of the cascade shower is constructed experimentally for the purpose of exact energy determination of decayed ray of π° -meson. The result is compared with the theoretical curve without Landau approximation. Finally, the feature of the total structure function with many different r -ray sources from the jet shower is studied, and, from this analysis, the energy converted to the soft component and average multiplicity of the r -rays can be determined.

論文の審査結果の要旨

長谷川君の論文「Emulsion chamber の中の一つの高エネルギー nuclear interaction の研究」は宇宙線中の超高エネルギー核子 ($\sim 2 \times 10^{14}$ eV) がエマルジョン・チェンバー内の炭素原子核と衝突して発生したゼット・シャワー中の、 π° 中間子のエネルギーおよび射出角度を測定して、中間子多重発生について、以下に述べる重要な実験結果を得たものである。

エマルジョン・チェンバーは 6 枚の炭素板 (1 枚 8 mm) を水平にならべ、その各々の層の下に 200μ の G5 エマルジョンを置き、つぎに 4 cm の空間をへだててその下に 3 枚の鉛板 (一枚 5 mm) をならべ、その各々の下に 200μ の G5 エマルジョンを置いたものである。これらをさらにくりかえしておいている。

そのエマルジョンを神戸大学校庭より飛昇させ、25,000m の上空に 6 時間浮遊させ超高エネルギーの宇宙線で照射したものである。

ここに解析されたジェット・シャワー S.H.I は上に述べたエマルジョン・チェンバーの上から 3 枚目の炭素板中に出来たもので、その下の G5 乾板中に多くの 2 次粒子が見られる。各乾板中の粒子飛跡を追って、対応をつけ、44 本の荷電 2 次粒子を見出した。その中 13 本は $5 \cdot 10^{-4}$ rad. 中に collimate して 3 枚目の乾板ではじめて分離された。44 本の飛跡からゼット・シャワーの原点の位置を 1 mm の精度で定めている。その真上の乾板を調べて、1 次線は重い原子核ではなく、Proton か neutron であると見なされる。荷電 2 次粒子の角度分布は Target diagram の重心をシャワーの軸と仮定して求めている。前方に集中した荷電 2 次粒子の角度分布は $1/\theta \cdot \theta d\theta$ の形の分布で、 $10^{12} \sim$ 数 10^{13} eV の数多くのゼット・シャワーを統計して得たものと一致している。前方に出た荷電 2 次粒子はエネルギーが高いため従来エマルジョン・スタッツの方法では、そのエネルギーは決定困難であるのでエマルジョン・チェンバー内で π° 中間子から発生する r 線 cascade shower に着目し、それから π° 中間子のエネルギーを定める。 π° 中間子から生じた r 線 ($\pi^\circ \rightarrow 2r$) は炭素板中では電子対を作らず、鉛板中にはいってカスケード・シャワーを作る。この場合には 20ヶのカスケード・コアが観測されている。その各々は 5×10^{10} eV 以上のものである。20ヶの内、19ヶがゼット原点からのものと確認している。

r 線のエネルギーはカスケード・シャワーの電子数の増加率より求める。 $\pi^\circ \rightarrow 2r$ の r の対は、その 2 つの r 線のなす角がそれぞれの r 線のエネルギーによることから確かめている。そして 7ヶの π° に

couple した。このようにして π° のエネルギースペクトルを得た。 r 線のエネルギースペクトルとともに $\frac{1}{E^2} dE$ で表される。 r 線、 π° 中間子の角度分布は荷電 2 次粒子のものと大体同じである。 π° の transverse momentum P_T の平均値は 450Mev/c で P_T は ± 200 Mev/c のせまい範囲内にあり、入射エネルギー、 π° 中間子の射出エネルギーに依存すると認められない。このことは重要なことである。また P_T は射出角度にもよらないことが確かめられた。

この解析から π° 中間子と荷電 2 次粒子との生成比は $R \approx 0.44 \pm 0.09$ であって Bristol group の大型エマルジョン・スタツクから求めた $R = 0.40 \pm 0.04$ に近い、1 次線のエネルギーは half-angle method によって決定している。その値が 2×10^{14} eV である。測定された π° 中間子のエネルギーと π^\pm 中間子のエネルギーの総和を作つて見ると上の値より、はるかに小さく 4.8×10^{13} eV となる。残りは重い中間子と 1 次粒子とが運んだと一応考えられるが或いは 1 次粒子のエネルギー算出に誤差があるのかも知れない。

以上エマルジョン・チエンバーで得られた $10^{12} \sim 10^{13}$ eV の数多くのゼット・シャワを統計して得られた性質が 2×10^{14} eV の 1 つのゼット・シャワーにおいても大体保たれると考えられる。エマルジョン・チエンバーによって超高エネルギー核相互作用を 20×10^{14} eV まで高い精度で解析して得たものとして高いエネルギー核子現象の研究に寄与多きものと認められる。かつエマルジョン・チエンバーによりさらに高いエネルギー領域にまで、その研究を拡げる可能性を開くものとして意義深き研究である。参考論文の内容とあわせ考え理学博士の学位を得るに十分な資格を有するものと認められる。